

ルター派コラールの始まりと発展

Kyrie, Gott Vater in Ewigkeit を例に

発題: 水野 隆一 氏

(関西学院大学神学部教授、RCCセンター長)

マルティン・ルターによって始められた宗教改革はさまざまな面を持っていますが、その中でも、礼拝の改革は、その後のドイツに大きな影響を与えることとなります。

ルターは、礼拝に集った人々が自国語で歌うことを回復しました。ルターとその協力者たちは、新たな歌詞と曲を作り出しましたが、同時に、それまでに存在していた典礼文や旋律を基に、ドイツ語の歌も生み出したのです。

それらの中から、このフォーラムでは、“Kyrie, Gott Vater in Ewigkeit”を取り上げ、前史とその後の展開を概観し、その意義付けと解釈を試みます。

● **日時:** 2017年7月6日(木)
17:10~18:40

● **会場:** 関西学院大学上ヶ原キャンパス
吉岡記念館3F会議室1

* 一般参加可・申込不要



関西学院 宗教改革500年記念行事

関西学院大学キリスト教と文化研究センター (RCC)

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155 TEL: 0798-54-6019 • http://www.kwansei.ac.jp/c_rcc/